

- **管 内** 空知管内
- **分 類** 生活安全 交通安全 災害安全
- **教育課程** 教科（ 科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動 その他
- **校 種** 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- **取組のポイント**

- 警察署と連携を図り、不審者が校内に侵入したことを想定した防犯訓練の実施
- 教職員の対応や児童の安全を確保するための方策についての共通理解
- 登下校時や自宅での留守番時における安全行動など、危険回避能力の育成

取組の実際

ねらい

- 不審者が校舎内に侵入した場合の避難の仕方を理解する。
- 登下校時に見知らぬ人に声をかけられた場合の対応や留守番時の訪問者の対応、電話の対応の仕方等を理解する。

内 容

1 警察との連携による防犯訓練

○ 不審者の設定

不審者役の男性は、警察署員に依頼し、次の設定で防犯訓練を開始した。

＜不審者の設定＞

- ・帽子やサングラス等の着用
- ・凶器が入っていると思われるかばんの所持
- ・玄関のインターホンで、子どもの忘れ物を届けにきたので、ドアを解錠するよう要求

児童の発達の段階を踏まえ、不審者を直接見ることのないよう配慮した。

○ 教職員の対応

インターホンで対応した職員が、児童の氏名を確認したところ、回答が不明確であったことから、管理職に報告するとともに、警察署へ連絡した。また、暗号による校内放送で、児童の避難、誘導について指示した。

管理職は、児童が安全な場所へ避難するまでの間、玄関で不審者の侵入を阻止するとともに、さすまたを準備させるなど、万が一の対応を行った。

○ 児童の避難

放送を聞いた学級担任の指示により、児童は、鉄製の扉で施錠が可能なコンピュータ室及び音楽室に避難した。

2 日常の場面を想定した訓練の実施

避難終了後、登下校時に車の中から声をかけられた場合の対処方法や、留守番時における訪問者や電話の対応の仕方について、警察署員が実際の場面を想定した演示を行った。

成果と課題

- 防犯訓練を実施したことにより、児童と教職員が、不審者や不審電話などの対応について、「誰が」「何を」「どのように」 行うのかを確認することができた。
- 「地域安全マップ」の作成などの学習と関連させた防犯訓練を実施するなど、安全教育の一層の充実を図る必要がある。



避難の様子



警察署員による訓練